校友時報

昭和39年7月13日
編集人兼発行所
秋田県能代市畠町追分2
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　大勝堂印刷所

東北大会 初出場初優勝！

硬式野球部

高校選抜野球で能代工を破り初優勝した本校は、五月十六、十七日の二日間、国体出場権をかけた東北六県野球大会に出場。参加校八チームによって熱戦が展開されたこの大会初出場の本校は昨年の甲子園出場の面目を保ち自信に満ちたプレーをみせ堂々優勝、初の国体出場権を獲得した。このことは本校野球部成立以来のことで、昨年の甲子園初出場と加えて本校の歴史の中に輝かしい一ページを残した。

第十一回春季東北六県高校野球大会兼国体東北予選は東北六県高野連の主催で、五月十六日から二日間青森市営球場でくりひろげられた。参加校の地元青森の青森商、青森商、八戸電工、岩手の盛岡商、秋田の能代高、山形の日大山形、宮城の東北高、福島の双葉高の八校の強豪チームは国体出場の夢をかけて元気いっぱいのプレーを展開、スタンドの応援団や地元ファンも母校と遠来のチームに盛んな声援を送って大会を盛り上げた。秋田県代表の本校は一回戦地元の青森商と対戦した。本校のエース渡辺は腕元で浮きにたるアンダースローで青森を三安打散発、九三振と封じ込めた。本校はコントロールのない青森商の投手から十個のようやく七回に三安打を重ねて四球と九個の盗塁、それに八安打を浴びせて大量十点をマークし、10－0の七回コールドゲームで大勝、幸先のよい試合をされた。

▽一回戦

青森商	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
能代高	2	3	0	0	2	3	X			10

（七回コールド）

【青】森山、大屋―三上【能】渡辺―加藤▽三塁打―米沢（能）▽二塁打―亀山（青）

準決勝は一回目の十七日、日大山形と対戦、日大山形は今大会も優勝候補ナンバーワンとされている難敵である。がやはり投手渡辺は腕元で浮きにたるアンダースローで青森を三安打散発、九三振と封じ込めた。本校はコントロールされた手堅い投球で相手打線を抑え、一方打線は日大山形の三投手より十三安打を放ち能代打線を爆発させ〇・三五〇という高打率を示し快勝した。

▽準決勝

能代高	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
日大山形	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1

【能】渡辺―加藤【日】渋谷、黒田、早坂、鈴木、富樫▽三塁打―柴田、渡辺（能）▽二塁打―中川（日）

同十七日の午後二時十分から地元代表の青森高と本校との間で決勝が行なわれた。両校は同日午前中の準決勝でそれぞれ盛岡商、日大山形と連戦したのにもかかわらずその疲れもみせず元気に対戦した。本校は秘回青森の立ち上がりを三安打、一犠飛と強くたたいて三点を先取、七回にも一点を加え計十安打で四点を上げた。青森は渡辺の腕元で浮き上がる球におさえられ三安打無得点、結局一回の明暗が勝負を決め今大会初出場で優勝するとともに初の国体出場の栄誉を勝ち取った。

▽決勝

青森高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
能代高	3	0	0	0	0	0	0	1	0	X 4

【青】西村、工藤―黒滝【能】渡辺―加藤

決勝のナイン

論説 学生服論争

我々が現在着用している黒の制服は、明治年代に海軍の制服をまねて作ったものである。以来、なんの変化もなく今に学生たちの間に着用されてきた。我々も小・中そして高校と誰から言われたでもなく学生服で通学した。ところが最近になって〝学生服論争〟というものが起きている。つまり〝学生服是か否か〟ということが言い争われているわけである。世間が騒いでいるのに当事者である我々は知ってか知らないでかこの事実になんの関心も示さない。この際に〝学生服〟というものを再認識してほしい。論争の内容は、肯定する側は、汚れが目立たない。経済的に安く易い。一目見て、学生ということがわかる。活動的である。学生らしいなどをあげている。また否定する側は、戦前の軍国主義的教育のあかがしみついている。物理的に夏は暑いという。

是とするものは、外面的な理由、これに対して否とするものは精神的理由をそれぞれあげている。この否とする精神面について我々は、ふだんあまり感じていないのだが、なるほど考えてみると、戦前の考え方が現在でもよほど根強く残っていることは確かだ。学生服は軍国主義の所産だということも確かだ。というよりも、戦前は終ったのだということ。現代という時代に我々は生活しているのだということ。こう考えてくると、やはり時代に即したものを考えるのが本当で、これに従って人間の頭も時代に合わせていかねばならないのである。すでに一部では制服や欧米風に背広とした学校もある。なにも背広が良いとはいわない。つまり〝現代〟にマッチした服装を考えることが必要なのである。学生服が〝学生のシンボル〟であるという考えは変ってきている。学生服を例にあげたが、このような問題はいまの学生活に直結している。近頃急に校則がきびしくなった理由の一つに〝服装をそろえれば自然に成績は良くなる。〟という考えがあるという。これは教員間での考えであるが、この先生方の考えは古い。むしろ成績が良くなれば自然と服装も良くなるものではないだろうか。

購買・家庭室移転す

去る四月十一日、我々の待っていた購買が小度室の隣りに完成した。新しくできた購買部室は、前の購買よりも、ずっと広くて明るい。また前よりも品物が多く、売場も広いので買いやすいと評判が良い。販売には、三年生の女生徒が当っているが、これも親切で販売がスムーズについている。これからの購買部に望みたいことは、今のところパンの販売が主なようであるが、これから他の物も、例えば学用品や生活雑用品などの販売をも、やってもらいたいということであろう。

とにかく新しくできた購買を、大いに利用したいものである。なお元の購買部の部室は、新聞部が使用することになっている。

また、昨年度より新課程が実施され、本校でも昨年から新らしく家庭科の授業が設けられた。現在一年の女子が昨年度に引き続き北高定時制の高橋こう先生から御指導いただき一週一時間、一番教室において二の授業をうけている。

今年度にはいり、家庭科では初めて調理台二台、ミシン五台が購入された。しかしこれらの総額は十万七千円で、昨年度および今年度の家庭科予算の総額をほぼ使い果しており、今後の設備（調理室、ガス、水道）の完全化は近年中には無理で、実際に調理実習が出来るようになるのは数年先の予定。そのため現在なお実習は北高調理室を借りて行なわれ一年の女子は一カ月に一度北高通いを続けている。

音楽会開催

去る六月二十二日（月）の午後から本校体育館に於て音楽会が開かれた。これは約十年ぶり、「ほぼ成功」の成果をおさめた。演奏者は（ヴプラノ）西脇達子、（フルート）柴田久、（チエロ）青木十良（ピアノ）柴田花枝、曲目はソプラノ独唱「お蝶夫人」からある晴れた日に〟、フルート独奏「アルルの女」から〝メヌエット〟、チエロ独奏サンサース作曲「動物の謝肉祭」から〝白鳥〟などの軽音楽で、演奏はすべてすばらしいものであったが、それを聞く生徒の態度について音楽科担当の山崎先生は、「聞く態度は一応立派だった」と語っている。演奏者の方々も非常に演奏しやすかったとおっしゃっていた。しかし、床に座ってクラシック音楽を鑑賞するということはなはだ不自然である。来年は本校の四十周年で、なお一層盛大な音楽会を計画するつもりであるし、それまでには是非全校生徒が坐れるだけの準備がほしいと語っておられた。

梅雨もあけ、それヴァケーションだ。やれバカンスだの声をチラホラ耳にするこの頃、校内で目立つのが同好会の活動である〝彼女に暴中見舞を〟のキャッチフレーズで絵ハガキを販売し、身体障害者への奉仕に努めるJRC、先頃、玉川（秋田）を征服し、次は鳥海山をと意気込む登山同好会。六月、雨のため中止となった男鹿巡りサイクリングをこの夏休み中に是非敢行しようと、計画に余念のない旅行研究会、とその活動はさまざまである。

さて、これら同好会には共通の大きな悩みがある。同好会なるが故に苦しまなければならぬ事、いうまでもなく資金である。何をするにも先立つものがこのカネ。正式なクラブとしてまだ認められていないこれら同好会には生徒会からの予算が支給されず、一切の費用は全て会員の自己負担という。各々同好会員は奮起一回音「活動はしたいし金はなし。予算のもらえるクラブがうらめしい。」とぼやくことしきり。いずれにせよ彼らにとって有意義な活動のできる夏休みであるよう祈ろうではないか！

時評 一期一会

山和也

「そもそも茶の湯の交会は、一期一会といひて、ただ一ばは、幾度おなじ主客交会するとも、今日の会は再びかへらざることを思へば実にわが一世一度の会なり。さるにより、主人は万事に心をくばりいささかもそまつなきやう、親切実意をつくし、客にもこの会にまた逢ひがたきを弁へ、亭主の趣向一つもおろそかならぬを感心し実意を以って交るべきなり。」これは大老として幕末の難局にあたった井伊直弼の筆になる「茶湯一会集」の冒頭の部会であるが、おもな茶道なども縁遠いわれわれにとっても、まことに味深い文章である。

それについても思い出すのは芸術家の心境にも似たものだろう。平山さんのことである。和算（うか。相手が子供だからといっていい加減に弾くアニストはいないだろうし、小学校に頼るのだから片手間に出かけてしまおうという画家もいないだろう。

模試だ、補習だと追いまくられているわれわれにとって、先日の音楽会は一服の清涼剤だった。演奏して下さった方々の真摯な気持もつたわれてきて、なじみ深い曲ささえ新たな感動を誘ったことだろう。だが「客」たるわれわれの方に「一期一会」の精神の欠けた者がいはしなかっただろうか。

今思えば平山さんの講義に対してわれわれは良き「客」でなかった。帰らざる悔いのとうとうである。

（数学担当）

県予選

第二回全県高校野球大会は、五月九、十日秋田市八橋球場で行なわれ初優勝を飾り東北大会の出場権を得た。結果は次の通り。

▽一回戦

秋田商	1	0	0	1	1	0	0	0	2	
能代高	2	0	0	1	1	0	0	0	5	

○二塁打―佐々木、米沢

▽準決勝

角館高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
能代高	2	0	0	0	0	2	1	0	X	5

○二塁打―柴田、加藤　○三塁打―渡辺2、熊谷

▽決勝

能代工	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
能代高	0	0	0	3	0	0	0	0	X	3

○三塁打―熊谷　○二塁打―米沢、畠山

学生の店
キムラヤ
学用品
畠町 2—5535

パンと洋菓子
エーワンベーカリー
夜食に
大町
T 2—2343

D.P.E
カメラ
三羊堂
畠町(2)4946

opt pen
カモヤ
畠町 T 2—3746

水虫には強力モーテル
試験勉強のお友にアスパラ・頭痛にノーシンけがならオロナイン
柳町
薬局 大越
2—5016

カスミ
2—5713
純喫茶
洋菓子

カラー写真なら
親切モットー
はらた
住吉町